

NPB セカンドキャリアサポートの現状と課題

Current state and problems of Second Career Support System in Nippon Professional Baseball

1K06B016

指導教員 主査 作野 誠一先生

猪狩 清徳

副査 原田 宗彦先生

【緒言及び研究目的】

近年、トップアスリートのセカンドキャリア問題が表面化するなか、国内では2000年以降セカンドキャリアに関する調査研究が盛んになってきている。その先端にいるJリーグでは2002年にキャリアサポートセンターが設立され、選手に対するキャリア支援内容を充実させてきている。この流れに追随する形で2006年、NPBにキャリアサポートセンターが新設された。一方、日本で最も人気のあるプロスポーツと言われるプロ野球だが、そのキャリア支援の実情はというと明確なシステムは今まで存在せず、2006年にNPBセカンドキャリアサポートが新設されてようやく支援が始まったところである。

人間的な部分も含め、トップアスリートが引退後も輝かしい功績を残すことが、野球界発展に繋がることは明白である。しかし、NPBセカンドキャリアサポートの実情は定かではなく、詳細な情報を知る唯一の手段は雑誌等のインタビュー記事等であり、NPBセカンドキャリアサポートの支援内容を充実させることは急務であると言える。

本研究の目的は、NPBセカンドキャリアサポートの詳細な現状・課題を明らかにし、その存在を一般に認知してもらうこと、そしてこれからの方針を見出すことである。

【研究方法】

今までのセカンドキャリア問題の研究視点を把握するため、そしてセカンドキャリア支援の

現状を他プロスポーツと比較検討するため、文献研究を行った。また、NPBセカンドキャリアサポートの内情を詳しく調査するために、NPB内部のセカンドキャリアサポート担当者への直接面接法を採用した。質問項目は、組織概要、具体的事業内容、そして筆者の立てた仮説に基づいて「プロアマ」「代理人」「教育・部活動」のキーワードを意識した内容から構成された。

【研究結果】

現状ではNPB自体の収支バランスが崩れている影響で、セカンドキャリアサポート部門に対する予算が組まれていないことが原因となり、積極的な活動には制限があることが明らかになった。しかし、具体的な事業内容として「"New Ball"の編集・発行」「NPBセカンドキャリアサポート認知度上昇のためのPR活動」「フェニックスリーグや2軍キャンプでの人脈作り」「新人研修会」「戦力外通告を受けた選手の追跡調査」の6つを中心に行っており、来年以降に繋がる活動を行っていた。

仮説の検証については、代理人の普及がセカンドキャリア問題の解決に直接結びつく可能性は低いことが分かったが、一方で指導者を希望する現役選手は多く、プロアマ問題の解消、指導者への道を切り開くことでセカンドキャリア問題の解決につながる可能性が高いことが示唆された。

【結論と課題】

NPB セカンドキャリアサポートは完全なキャリア支援には程遠いものの、来年度以降を見越した活動を行っていることが明らかになった。また、国内・国外プロスポーツとの比較検討により、これから参考、もしくは採用し得る具体的キャリア支援策として「インターンシップ制度」と「指導者資格制度の整備」の提案を行った。これらを実効性のあるものにするためには、NPB のキャリア支援に対するさらなる調査研究とともに、NPB セカンドキャリアサポート主導のステークホルダーマネジメントの必要性があることを指摘した。